



それは食文化という名の犯罪であった！

東アジア地域に於いて年間 3000 万頭を超えると言われる違法な犬肉の食文化に対して、今、心ある人々が異を唱え立ち上がり始めた！その姿を炙り出し中国、韓国、日本のロケでドキュメンタリー映画を製作。

その姿を炙り出し中国、韓国、日本と移動総距離 15,000 キロを決定したドキュメンタリー・ロードムービー。

例えば中国の多くの地方では、ペットとして飼われていた犬や猫を盗んできては食肉業者に売り飛ばす商売が横行しています（中国政府は犬の繁殖場・屠殺場も認めてはいない）。屠殺業者の一部には未だ、犬に恐怖と苦しみを与えると肉が美味しくなるという迷信を信じ、犬たちに不必要な拷問を与えて殺している人間がいます。

その実際は生きたまま犬の皮を剥ぎ、熱湯で釜茹でにする、四肢を切断するなど、様々な筆舌に尽くし難い程の残酷な方法がとられています。

そして日本にも大量に違法犬猫肉が輸入されている実態も知る事となりました。

また、或る筋から、戦後日本に於いても地方などで犬が食用として消費されてきた事実も知る事となり、今回の作品に取り入れる事にしました。それは私たち日本人において、安易に中国人だから、韓国人だから犬を食べるのだ、残虐なのだという民族間の感情を煽る発想に陥らないためにも要となるシーンでもあります。

如何に残虐シーンを描かずに、残虐性を描ききるか？

今回の撮影ポリシーは、光を映し取ることによって結果的に闇の存在を浮き彫りにして世界に知らしめる事です。

それは、如何に犬肉食にまつわる残虐性を描かずに、違法な犬肉食とその関連産業を描くかという逆転の発想からきています。

具体的には、犬肉食とその関連産業を阻止しようとする人々に光を当て、人が動物と共生する社会に向けての倫理観について、この映画を見た人たちに考えてもらえるような作品を世に送り出すことです。残酷な映像はネットで検索すればいくらでも出てくる時代です。ですので今回、敢えてそれを前面に押し出す必要はないと考えます。



中国

牛・豚・鶏のような検疫部門は犬や猫にはなく、公認の犬屠殺場も存在はしない。食用犬の大半は盗まれたペットが多く、農村地域では飼い主自身が犬肉業者に売るケースなども多い。

韓国

犬が食用として認可され、世界で唯一、全国25,000ヵ所以上に犬の飼育・繁殖兼屠殺場が存在する。しかし、その実態はとても犬を食用にするには程遠い不衛生・不人道的な劣悪環境であった。

日本

例えば犬皮を使う三味線に代表されるように、他国の違法な犬肉も、この現在に於いても日本へ輸入され続けている。しかも何の目的で輸入しているかなど、肝心な点は関連省庁など誰も、把握はしていない。

監督 北田直俊 / プロデューサー 小尾栄子 / 音楽 坂本弘道 / 通訳 呉 敏・権 彝 / 撮影 北田直俊・小尾栄子・井上貴弘・Kwon Lee
出演 楊曉雲 / キム ナミ / 神野重雄 / 王 岩 / AJ GARCIA / 周予松 / Yoon Green / 張婷婷 / Jeff Beri / BK / Davide Acito
中国語翻訳 喬耀云 / 韓国語翻訳 張宰閔・장재민 / 英語翻訳 渡邊康恵 / Web 稲田志野

【劇場公開作品】2018・123分・カラー / 製作 ©合同会社 adg-ethics【エーディージー エシックス】

【お問い合わせ】

Facebook▶<https://www.facebook.com/asiandogs/> 公式サイト▶<http://www.adg-theater.com/asiandogs/> e-mail▶small.one.cinema@gmail.com